

第3弾！外国語科公開授業(10/17/2013)

授業者 桐生市立相生中学校 星野喜久江 教諭

- 公開された授業: 英語(中3)、等質少人数クラス18名
- 参観者: 87名
(桐生市内及び県内各地の小中高の先生方、学生他)



新出文法事項の導入場面で、生徒一人一人が考え、学び合い、気づきを共有する活動を取り入れた。

【題材名】『身近な話題についてディスカッションをしよう』

【本時のねらい】現在分詞の後置修飾が用いられた文の意味を理解させるとともに、現在分詞を含む名詞句の意味のかたまりに気付かせる。

【伸ばしたい資質・能力】

意味のかたまりで英文を捉える力

意味のかたまりで区切って音読する力

◆ 文法についての気づき(noticing)を促すグループでの話し合い活動

◆ ペアごとに初見の英文を区切って読ませるタスクの設定

◆ 意味のかたまり(chunk)＝「現在分詞の後置修飾を含む名詞句」に気付かせるためのモデル文の提示の工夫

授業づくりのポイントと教室環境づくりについて

1. 年間の到達目標から題材で求める表現・理解の能力を明確にした。

○「表現の能力」の例

自分の体験や身近な話題について、Read & Look upでスピーチを行ったり、主張と根拠、結論などを含む段落を構成してまとまりのある文章を書いたりすることができる。
相手の発話に対して、その場で関連する質問をしたり、自分の意見や感想を伝えたりして、コミュニケーションを継続することができる。

2. 題材の目標を「生徒が活動で用いる英語」のレベルで具体化した。

○題材のまとめとして行う活動(ディスカッション)での話し手の英語の具体化

The anime movies made by Miyazaki Hayao has been introduced to other countries. Today they are very popular because their stories are very unique and their pictures are more beautiful than other anime movies, I think.

Also, the characters in his movies are very cute. I like “Chihiro” the best. Look at this picture. The girl talking with ghosts is Chihiro. I think she is cute and brave.

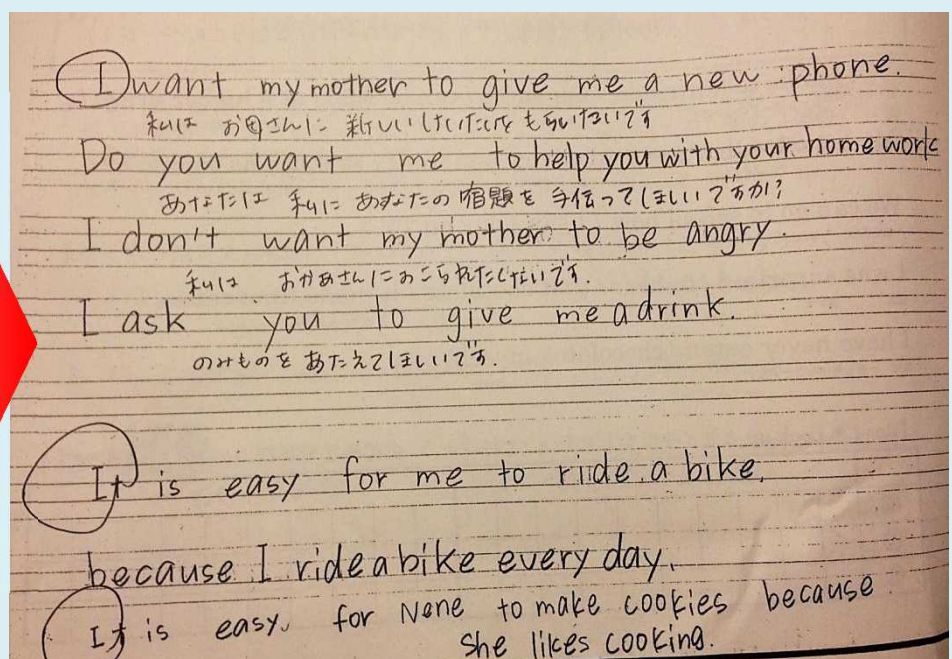
3. 家庭学習及びノート指導の改善を行った。

授業中の活動→家庭学習でも行えるよう、ワークシートを工夫

<生徒のノート>

予習中心
から復習中心

和訳中心
から自己表現
中心



4. 教師の一方的な文法説明からの脱却を目指した。

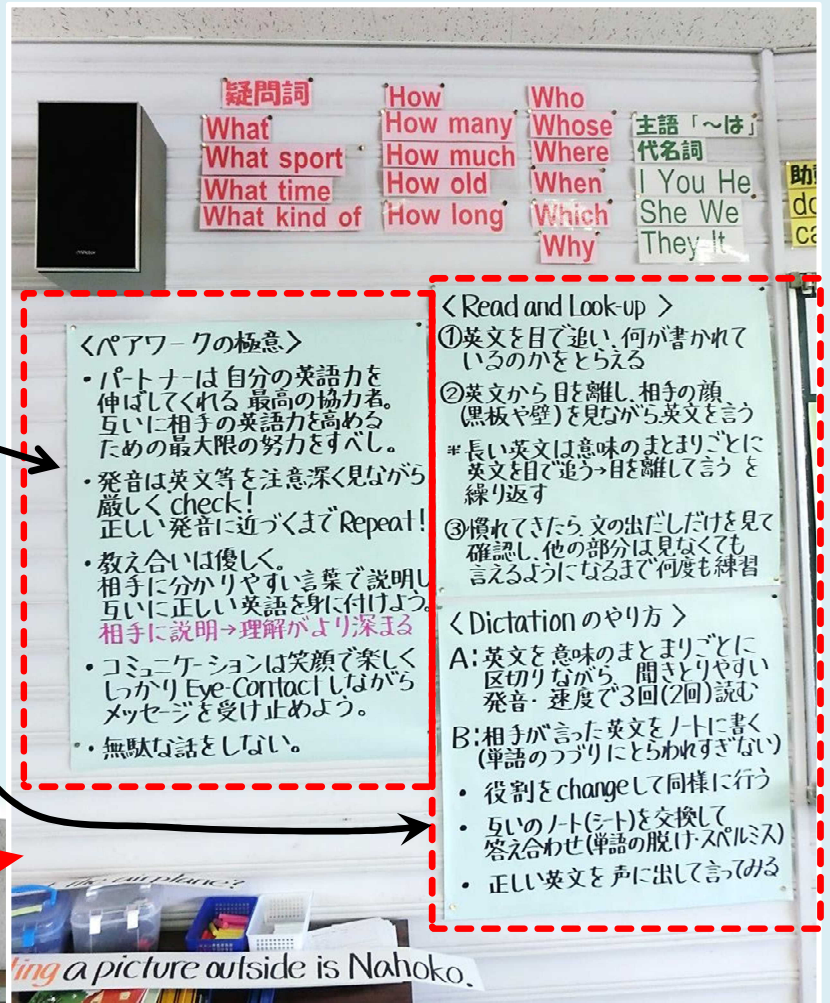
①モデル文提示後の文法的な気づきを促すペアやグループの活動(Focus on Form Instruction)を取り入れることにした。

②気づきや発見を伝え合い、学び合う集団作りのため、ペア・グループ活動を増やしたり、活動中の教え合いを取り入れることにした。

③ペア・グループ活動の意義や、新たに取り入れた学習方法(音読の仕方など)について、常に確認し、生徒同士で方法を確認しながら主体的に活動ができるよう、教室掲示を工夫した。

ペア・グループ活動の目的などについて、英語教室の左前にいつも掲示し、折に触れて教師がガイダンスを行う。

新たに学んだ学習方法(ディクテーションやRead and Look up)などを掲示しておく。



<ペアワークの極意>

- ・パートナーは自分の英語力を伸ばしてくれる最高の協力者。互いに相手の英語力を高めるための最大限の努力をすべし。
- ・発音は英文等を注意深く見ながら厳しくcheck! 正しい発音に達するまでRepeat!
- ・教え合いは優しく。相手に分かりやすい言葉で説明し互いに正しい英語を身に付けよう。相手に説明→理解がより深まる
- ・コミュニケーションは笑顔で楽しくしかりEye-Contactしながらメッセージを受け止めよう。
- ・無駄な話をしない。

<Read and Look-up>

- ①英文を目で追い、何が書かれているのかをとらえる
- ②英文から目を離し、相手の顔(黒板や壁)を見ながら英文を言う
#長い英文は意味のまとまりごとに英文を目で追う→目を離して言うを繰り返す
- ③慣れてきたら文の出だしだけを見て確認し、他の部分は見なくても言えるようになるまで何度も練習

<Dictationのやり方>

- A: 英文を意味のまとまりごとに区切りながら、聞きとりやすい発音・速度で3回(2回)読む
- B: 相手が言った英文をノートに書く(単語のつづりにとらわれず書きな)
- ・役割をchangeして同様に行う
 - ・互いのノート(シート)を交換して答え合わせ(単語の脱けスバルス)
 - ・正しい英文を声に出して言う

教室内の掲示物の様子

掲示物を工夫することにより、教師の余分な説明を極力減らし、またできるだけ英語を用いて授業が行える環境を作ることができた。

授業の主な場面と様子① 「文法的な気づきを促す導入の場面」

<(1)「モデル文の導入」> 7分

教師のモデル文を聞き、現在分詞が用いられている文の意味や現在分詞を含む名詞句に気付かせるためのグループ活動を行いました。

○モデル文の工夫

- ◆ 文法的な気づきを促すために、新出言語材料(現在分詞の後置修飾)をモデル文中に多く盛り込んだ。(少量のインプットからIntakeは起きないため)
- ◆ 新出言語材料を含む英文をJTEが言い直すことで、インプットの量を増やすとともに、新出言語材料に注意が向くようにした(Recast)。

JTE: Who is the man looking at the airplane?

ALT: The man looking at the airplane is Horikoshi Jiro.

JTE: I see. **The man looking at the airplane is Horikoshi Jiro.**

(生徒に配布されたワークシート中にはない1文。その場で教師が言い直した。)

○聞き取りのポイントをそれぞれ明示した。

【1回目】 「誰について何と紹介しているのでしょうか。聞き取って、その後すぐにグループ内で確認しましょう。」

【2回目】 「どの写真のどの人物について説明しているのか、目で追えるといいね。1回目よりも、詳しい情報を聞き取ってみましょう。」



<(2)「グループによる気づきの共有」> 8分

Focus on Formを取り入れ、文法事項について気付いたことや分かったことを伝え合いました。



①「現在分詞の後置修飾を含む名詞句」をかたまりとして捉え、音読する際に、区切る位置を考えさせた。



②区切りが分かったグループには、「疑問文を作るには?」、「進行形との違いは?」と教師が次のタスクを与えた。



授業の主な場面と様子②「文法的な気づきを深める終末の場面」

<(3)気づきを深めるためのペア活動> 10分

教師自作の初見の英文中に含まれる現在分詞を含む名詞句を探し、区切りを見つける活動に取り組みました。

○初見の英文の工夫

- ◆生徒の身近な場面や他教科の先生を取り上げた。
- ◆既習の文法事項や生徒がよく使う表現を基に作成。
- ◆意図的に難易度の異なる英文を用意し、文構造や既習の文法事項に対する習熟の度合いを考慮した。



<実際の英文の例(8ペアに対し、5種類の英文を用意し、各ペアにタスクとして提示した。)>
The teacher using a sewing machine in front of the students is Ms. Kaburagi. She is explaining how to use the sewing machine. It is hard for me to use a sewing machine.

まとめ

【授業研究会での意見】

○モデル文での導入がとても自然で、グループによる意見交換があったので、全員が授業に参加していた。

○教師の文法説明を減らし、家庭学習でポイントまとめさせる工夫がよかった。

○気付かせることが中心の授業であるが、日本語で話し合わせるより、口頭練習する時間を増やした方がよかったのではないかな。

○意味のかたまりを捉えさせるのは難しいと感じた。(それだけに早くからチャンクで英文を捉えさせる活動を取り入れる必要があるのではないかな)

○JTEやALTが繰り返し現在分詞を用いていたのは、よいインプットになったのではないかな。



【参加者の振り返り】

○inputとoutputの間にNoticingを入れること、そしてその意義を考えさせられました。

○「生徒の気づき」を基にした新出文法事項の導入の仕方を初めて拝見して、とても新鮮な驚きがありました。生徒は、気付くことで「より学びたい」という意欲をもって活動していました。

○子どもたちに分かりやすい、楽しい授業ができていませんでした。星野先生の「気付かせる」授業など、まだまだ学んで工夫していかなければと思いました。モデル文の工夫など、今日帰ってから考えてみようと思います。

【授業者の感想】

○生徒が少しずつですが、確実に変わってきていることから、今回の授業公開のお話をいただいて、授業改善に向けた取り組みが、私たちの財産になったことは間違いないと確信しています。

生徒は、「何だかよく分からないけど、とりあえず、やってみよう」と、彼らなりに頑張って、「何となく楽しいかも？」という手応えを手に入れました。今度は、自分たち教師ががんばる番だと私は思っています。